

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《外国人》・研修生	2026年度 春季
専門科目		

《解答又は解答例》

[1] ①伊勢物語

平安前期の歌物語。在原業平に擬えられた主人公の恋など、さまざまな内容をつづる短編集

②土佐日記

平安中期の紀行日記。紀貫之が、国司の任を終えて土佐から都へ帰り着くまでの旅を、自身を女性に仮託し仮名でつづった旅日記

③新古今和歌集

鎌倉初期に編まれた第八番目の勅撰和歌集。後鳥羽上皇の院宣によって、藤原定家・藤原家隆らが撰んだ。

④南総里見八犬伝

曲亭馬琴による江戸後期の読本。98巻106冊の大長編。『水滸伝』の影響下に、南総里見家にまつわる家臣八犬士の活躍を描く。

[2] ①樋口一葉

明治前期の女性小説家。当時高い評価を得た代表作「たけくらべ」をはじめ25歳で没する直前に「にごりえ」「十三夜」などを次々と著し、文名が高まるなかで早世した。

②芥川龍之介

大正期を代表する小説家。「鼻」が夏目漱石に認められ、文壇の寵児となった。「羅生門」「地獄変」「河童」など多くの短編の名品を残した。

③谷崎潤一郎

大正～昭和前期の小説家。耽美的作風で知られ、小説「痴人の愛」「春琴抄」「細雪」などで広く知られる。

④三島由紀夫

昭和前～中期の小説家。小説「仮面の告白」で作家としての地位を確立、以後、唯美的な作風で知られ、小説「金閣寺」「潮騒」「豊饒の海」などで広く知られる。

[3] ①係り結び

文語文の規則。係助詞の使用が文末の活用語の活用形に影響を及ぼす呼応関係。「ぞ・なむ・や・か」「こそ」（係り）に呼応して述語となる活用語が、それぞれ連体、已然の各活用形となること。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《外国人》・研修生	2026年度 春季
専門科目		

②漢文訓読

漢文に返り点や送り仮名を施し、日本語として読む方法で、古代より行われた。

③歌枕

おもに和歌に詠まれる名所を指す。有名な古歌に詠まれた地名が、その歌のイメージを伴って、平安時代以降、固定化して定着した。

④新体詩

明治末期に口語詩が起こる以前の明治文語詩。外山正一らによる「新体詩抄」に始まり、北村透谷・島崎藤村・土井晩翠らによって発展し、日本の近代詩の源となった。

〔4〕 学力検査にあたらない問題のため、解答又は解答例はありません。

《出題の意図》

〔1〕～〔3〕 日本語・日本文学の専門的知識を問う。

〔4〕 学力検査にあたらない問題のため、出題の意図はありません。